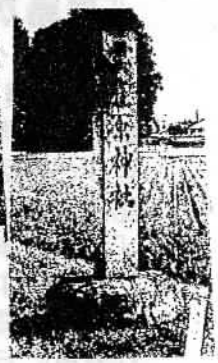
九条はらまち

福島県南相馬市原町区
「はらまち九条の会」会報 No.349
2020（令和2）年10月 2日（金）発行

◆「恐らく自分たちは、太平洋戦争を体験した方々から直にお話を聞くことができた最後の世代になるんじゃないかと思います」と、NHK朝ドラ『エール』で古関金子役の女優**二階堂ふみ**さんは、戦争の時代を演じる際の心構えを話しています。◆たしかに、戦争体験世代が少なくなってきて、父母や祖父母らの戦争体験を受継いだ私たちは、次の世代にしっかり伝えていきたいものです。

戦後75年 伝えたい南相馬市原町区の「戦争遺跡」

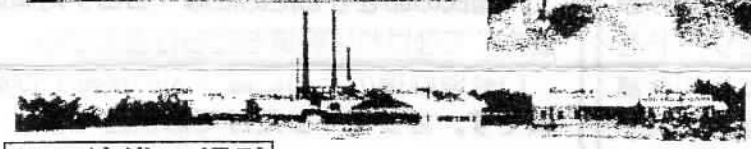
「戦争遺跡」とは、戦争のための施設や戦争で被害を受けた建物などで、戦争や平和を考え伝える生きた教材です。原町区内の身近な「戦争遺跡」を探してみました。



旧陸軍原町飛行場跡（馬場）

＜左＞当時の飛行場正門　＜中央＞飛行機第４格納庫の礎石　＜右＞雲雀ケ原神社の社殿と、米軍グラマン機の銃弾痕が残る雲雀ケ原神社の石柱

○1945（昭和20）年2月16日、米軍機の空襲で破壊される。飛行場には新鋭戦闘機「隼」が配備されていたが、戦力温存を理由に迎撃することはなかった。
○この空襲は、米軍が硫黄島を攻撃する直前の、東北地方で初の空襲でした。



原町紡織工場跡（国見町・現在の国見団地）工場と正門

○原町飛行場に隣接し、1945（昭和20）年2月16日朝、米軍グラマンなど16機の空襲で犠牲者を出す。犠牲者4名は、国民学校教員（39歳）、勤労奉仕の相馬商業学校生（現原町高校生17歳）、女子挺身隊員（22歳・19歳）ら若者だった。
○同年8月9日にも空襲され、直撃弾で1週間も燃え続けました。

原町無線塔跡（高見町・道の駅の西）

鉄筋コンクリート製、高さ200m。大正十年開所し昭和八年まで使用。風化により、昭和五十七年に撤去された。
○昭和20年8月9日の空襲で、二発のロケット弾が命中し、大きな穴ができた。

原ノ町駅（当時の原ノ町駅には、機関車を点検し石炭や水を供給する機関区があり、駅員も多かった）

○終戦のわずか6日前の1945（昭和20）年8月9日の空襲で、大甕太田の民家の3名が犠牲になる。
○翌8月10日、原ノ町駅機関区が直撃弾をうけ6名が犠牲になり、駅の東の帝国金属工場、相馬農校、国民学校（現原一小）、原町女学校（現原一中）、石川組原町製糸所（旭町）なども空襲された。

No.349

▲コスモスが秋風に揺れ、「世界は憲法9条をえらび始めた」の九条看板に美しくよく映えています。大震災後、全国からの被災地訪問で訪ねる方も多かったのですが、今年はコロナ禍で訪問者は少ないようです。

“九条看板にはコスモスがよく似合う”

原町区錦町（県道12号線沿い）の本会の「九条看板」は、仲秋の今、可憐なコスモスの花に包まれています。

2008年の建立以来、毎年酷暑の中で周辺の雑草取りやコスモスの手入れは、平田慶肇会長の奥様が行っていて、会員一同心から感謝を申し上げております。

会員さんの著書紹介

『福島から問う 教育と命』

岩波ブックレットNo.879 中村晋・大森直樹著

3.11震災直後、福島県県北地区の高校も原発事故に翻弄され、学校現場では生徒や教師、保護者がどれほどの苦難にあったかを、単なる震災の記録ではなく常に弱者の立場からの鋭い視点で、「教育が本当に命を育んでいるか」を考える。

著者の中村さんは高校教員、福島市在住の本会会員。大森さんは東京学芸大学准教授で「3.11が教育にもたらしたもの」を執筆。2013年出版。

また、中村さんは俳人金子兜太（故人）に師事してきて、昨年**句集『むずかしい平凡』**（会報No.338で紹介）を発行し、9月に**第23回日本自費出版文化賞詩歌部門に入選。**2005年福島県文学賞俳句部門正賞も受賞されています。

『原高ものがたり80』山崎健一編著

昨年創立80周年に因み原町高校の87のエピソードを写真を多用し戦争と平和を意識して編集。A4判、124ページ。著者は原町高校同窓生で旧職員、本会事務局員。

主な内容は◆前身校の相馬商業学校と原町女学校とは◆郡山市で空襲に遭った原女生120名◆昭和23年原町高校誕生の経緯◆原高校歌の作曲者古関裕而、作詞者多田利男はどんな思いで校歌を作ったか◆合唱コンクールの始まりは◆シンボルの金木犀のこと◆全国唯一、『原高新聞』は全号を完全保存◆五輪選手西内洋行さん、箱根駅伝今井正人さん等々。

■取扱い店：原町区三島町 おおうち書店さん

会員さんより

所感 コロナ対策について

「さがみ９条の会」牧内 勝さん（84）

『九条はらまち』は文字通り“啓発”誌で、毎回記事も満載、興味津々たる思いで感謝して読み、有難うございます。

ひと言、最近の「コロナ対策」についての所感をお伝えします。

○国のコロナ対策は完全に「国の安全保障」政策であり、「憲法９条を護る」趣旨と基本的に共通しています。共に日本の平和と安全を脅かす「敵」から国民を護るための政策です。そして今、敵は日本の「外」（北朝鮮、中国）ではなく「内」に存在します。まず以上の点を正しく認識する必要を感じます。

○国は今、コロナ対策と経済政策の「両方をバランス良く取る」方針です。だが“本気で”国民の命を守るためには「コロナ対策最優先」でなければ経済も立ち行きません。

○経済回復のためには「人の移動」が必須です。オンラインだけでは無理です。

○結論として、ＰＣＲ検査を「誰でも・どこでも・無料で」受けられ、陽性者は一時隔離するために、陰性者はマスク・消毒・３蜜回避を厳守し「安心して自由に移動できる」ようにすべきです。「世田谷モデル」に倣い、全国で実施できるよう政府が全力で支援すべき時だと考えます。

（牧内さんは神奈川県相模原市民ですが、震災後に「はらまち九条の会」に入会。本会には南相馬市以外の会員さんも多く、本会はまさに“全国区”です。平和や憲法９条を守るためには市町村や県境も国境もありませんね。）